

農業共済新聞 毎月4週号 に連載執筆が始まります

農業共済新聞 2018 年4月号より「微量元素のはたらき～より効果的な活用に向けて」の表題で、毎月4週号に1回の連載が始まります。毎回図表1枚と800字～900字で、ほんの小文ですが、エッセンスがまとめて書かれるため、読者は読みやすいと思います。

編集部からは、必須微量元素8種について最初は総論、その後は毎月1元素ずつ9回の執筆を依頼された。編集部は作物へは必須元素の施肥が最も重要と考えておられる。誰もが陥る間違いである。必須元素だけではダメである。イネ科植物にはケイ素、塩性植物にはナトリウム、豆科植物にはコバルトの計3元素が有用元素として認められている。イネ科植物には農作物として重要なイネ、麦がある。また豆科植物には大豆がある。実際農業として日本ではイネや大豆を省くことが出来ない。したがって、必須元素だけで良いと考えるのは間違いである。そのため、第1回目は微量元素、多量元素の位置づけと共に、ケイ素の必要性と、多量元素で最も忘れやすいイオウの働きについて執筆させて頂いた。詳しくは新聞を参照下さい。

次号からは多くの農業技術者が堆肥さえ、施用しておれば、微量元素は含まれていると考えておられることが全くの間違いであることを具体的事例を示して紹介したいと考えている。連載回数は、全体で11回になる予定である。12月は4週号の発行はないため、最終回は2019年3月4週号となる予定です。

農業共済新聞は読者も多い。少しでも多くの方に、必須元素だけでなく、有用元素も用いながら、昨今の減化学肥料しかも異常気象時代に多収穫で、高品質な農産物を収穫するコツを少しでもお知らせ出来たらと思っている。